

山桜の里 戸赤

昨年戸赤の山桜が「東北夢街道の16番札所」に選定され、

今年も札所めぐりのスタンプラリーが行われています

4・17区役員会で段取り。親せき縁者の応援もとりこみ、できるだけのことをしたいと苦心さんたん。今年も下郷町観光公社の出店が約束され 心強い



山桜の柱に掲出されている銘板



5月3日 やまざくら月まつり

花豆パイ

手打ちそば

ヤキトリ

もち

いわなバーガー

ふきのとう・てんぷら

生ビール

いわな塩焼き

うどん

玉こんにゃく

日程

- 4・14 実行委員会で原案作成
- 4・17 区役員会
- 4・22 催事飲食出店届
- 4・23 女性部会出店会議
- 4・27 在庫資材等確認
- 4・29 買い物・食材等発注
- 開花予想により道案内看板掲出
- 4・30 新聞折り込み告知
- 5・2 テント設営、借用品搬入
- 5・3 イベント



ノートは自由に持ち帰れる

- 5・4 イベント
- 5・5 借用品返却、後片付け

主宰
五十嵐健一氏



戸石集落の広場にのぼり旗

学校で(同時開催)
風景写真展

【木地の学習No.42】 亀、①大平村下ノ小屋・更目木・四ッ小屋には古くから木地挽がいて、白河藩主丹羽五郎左衛門のとき初めて木地挽役があった。(丹羽五郎左衛門は、寛永四年～寛永十四年) (元禄十一年八月の文書) ②六十三年前(寛永三年)草倉沢・矢立沢小屋・鎌滝沢の三ヶ所に白河領の木地挽がいた。草倉沢の木地挽は、鶴沼川の南、日向小屋へ、矢立沢・鎌滝沢の木地挽は、大平村の向狐小屋へおい立てられた。(元禄十一年五月の文書) ③鶴沼川の北の方藤沢にいた木地挽は、加藤式部少輔(寛永八年～寛永二十年)のときおい立てられた。④鶴沼川より南、狐小屋、吉野芽小屋にいた木地挽達は、五十三年以前(正保三年)、下ノ小屋・更目木に移り、さらにこの両木地小屋の者は、六年以前(元禄六年)板小屋と湯小屋へ移った。菊地家系図にある吉ノ目・下ノ小屋を経て、元禄六年湯小屋へ移ったという記述は、まさに④の記述と一致する。この後菊地家は、延享二(1745)年、針生戸板沢へ移ることになる。(会津地方歴史民俗資料館「木地語り」より) (つづく)

南会津建設事務所
概略設計で固める
戸赤地内の
県道ルート

福島観光キャンペーンPR紙の掲載記事

下郷町
戸赤の山桜
明治時代から大切に守られてきた桜は、山の第一面に咲き誇ります。遊歩道や展望台も整備され、ゆっくりと花見を楽しめます。

- 場所 / 下郷町戸赤
- 問い合わせ / 下郷町産業課観光係
TEL.0241-69-1144
- 交通 / 会津鉄道会津下郷駅から車で約20分

180 戸赤の山桜
先人が留め木として大切に育てた約100本の山桜が、山の第一面に咲き誇ります。遊歩道や展望台も整備されていて、ゆっくりと花見を楽しむことができます。

会津鉄道 湯野上郷駅
会津鉄道 下郷町大字下郷駅

南会津建設事務所

新聞定価月ぎめ6,000円(消費税、送料含む) 第三郵便物認可

会津版

● 会津支局 ●
会津若松市北滝沢2丁目5-17
☎(0242) 25-5220

建設業界の行事
催事は本紙へ
最寄りの支社・支局
まで一報ください

南会津建設 南倉沢トンネル着工へ

発注見通し 352号見通橋は詳細設計

南会津建設事務所はこのほど、総件数114件の公共工事発注見通し(3月20日現在)を公表した。国道289号・南倉沢(仮称・下郷町)のトンネル掘削工や国道352号・金竜橋(南会津町滝原)の下部工、国道高岡田島線・二枚沢橋(下郷町沢田)下部工などに新規着工する。

内訳は工事71件、委託など43件。国道289号甲子トンネルの下郷町側、南倉沢バイパス3工区に建設する南倉沢トンネルは債務負担行為による2カ年事業で着工する。計画延長2.69キロ、幅員6.5(7.5)メートルで発注時期は8〜9月ごろ、工期は18カ月を予定。国道352号中山峠改築の一環、金竜橋架け替え事業も債務負担による2カ年事業で同時期の発注を予定。延長1.08キロ、幅員8メートルの鋼3径間連続鉄桁橋で、今年度は下部

工一式に着工する。予定工期は15カ月。このほか峠改築関連では、新中山トンネル鉛岩地区側で昨年度着工した函梁工の継

委託関係では、国道352号・見通橋(楡枝村)の架け替えに伴う橋架詳細設計に新規着手する。国道400号舟鼻改築では、下郷町戸赤地内約2.3キロについて概略設計を行い改良ルートを固める。県道下郷会津本

統分(50メートル)、田島地区側の消融雪施設、改良・舗装工100メートルなどを実施する。

新潟・福島豪雨災害では、叶津川(只見町)災害関連事業について年度内竣工を目指して工事を推進する。

会津縦貫南道路の一部区間で、昨年度から現地着工した国道118号・小沼崎バイパスでは、下郷大橋(仮称)建設に伴う右岸側の工事用道路(延長約2キロ)開設および探礎杭、橋台工一式の発注を予定している。

郷線の板倉バイパス(下郷町栄宮)は、集落を迂回するための約1.6キロの道路予備設計に着手し、早期着工を目指す。

※5面に発注見通し掲載

戸赤地内など県道改良の設計に着手(福島建設工業新聞 4.11)

(ストーリー性のある村づくりのために) [No.12]・紅梅前宮 弥五島の和田と成岡の境に、屋敷という地名がある。ここに一つの石の祠が祀られてあり、里人は姫宮神社と崇めお参りする。言い伝えによると、高倉以仁王の第二の王妃かつらぎ姫が、宮が流転の御後(みあと)を慕い、星行武外侍従土侍女たち八人の家臣とともに、この地に参られたが、姫は臨月の身重で、旅の過労のためにわかに産気づかれた。折から通りがかった草刈りの里人らが奉仕して、仮小屋を結び仕上げ、産殿として奉った。案ずるほどこともなく、産み給うたのは玉のような女の子であった。産後のかつらぎ姫もお健やかで、そのとき「里人の心づくしの有難さ草の庵(いおり)も都とぞ思う」と一首を詠まれた。仮小屋の傍らには小沼があつて、よく猿が水飲みに降りて来る。

「下郷町史-第5巻民俗編(発行・下郷町)」より出典(続く)